

学習指導要領・解説書における「新聞」に関連する記述

(「解説」部分は一部抜粋)

◆中学校

【国語】

○各学年「C 読むこと」

内容→読書と情報活用に関する指導事項

解説→読書を進めたり、情報を得て活用したりすることを示している。ここでいう「読書」とは、本を読むことに加え、**新聞**、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。そして、それらの本や文章などから得た内容を「情報」としている。

○1年「B 書くこと」

目標→目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えた的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。

指導事項→(1) ア 日常生活の中から課題を決め材料を集めながら自分の考えをまとめること。

内容→ア 課題設定や取材に関する指導事項

解説→課題が決まったら、その課題に関連して「材料を集めながら自分の考えをまとめること」になる。材料を集める段階においては、本、**新聞**・雑誌、テレビ、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用が考えられる。これらの指導に当たっては、「C 読むこと」の、読書と情報活用に関する指導との関連を図ることが重要である。

内容→ウ 行事等の案内や報告をする文章を書く言語活動

解説→案内や報告をする文章では、相手や目的に応じて、伝えるべき事柄を簡潔に分かりやすく書くことが大切である。例えば、友人に伝える場合と、友人以外の第三者に伝える場合とでは、どのような情報を取り上げるかが変わってくる。伝えるべき事柄としては、行事名、日時、場所などという一般的ななものに加え、それぞれの案内や報告に応じた個別的な要素が考えられる。形式もポスターやパンフレット、手紙、**新聞**などの中から、目的や効果を考慮して選択することになる。その上で、読み手に分かりやすく伝えるための記述や構成の工夫などについて考えさせることが大切である。

「C 読むこと」

目標→目的や意図に応じ、様々な本や文章を読み、内容や要旨を的確にとらえ能力を身に付けさせ、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

指導事項→カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身につけ、目的に応じて必要な情報を読み取る。

解説→「必要な情報を集めるための方法」とは、例えば、必要な情報があるかどうかを、

本の表題や目次、索引等から判断したり、**新聞**の紙面構成等に基づいて、必要な部分を探して読んだりするなど、それぞれの資料の特性を生かした読み方をするのである。必要な部分に効率よく着目するためには、様々な資料の形式について理解することや、読む目的や対象によって読み方が変わるということを理解することが大切である。

○2年「A 話すこと・聞くこと」

目標→(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせ、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。

内容→① 指導事項

ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理する。

解説→社会生活における問題を話題として取り上げるためには、話の材料を日常生活からだけでなく広く社会生活から収集する必要がある。そのためには、本、**新聞**・雑誌、テレビ、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段を活用することが一層不可欠となる。このような多様な取材方法を身に付けることにより、話題の範囲が日常生活から社会生活へと拡大していく。

「C 読むこと」

目標→(3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

内容→①指導事項

カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取る。

解説→「必要な情報を集めるための方法」とは、例えば、必要な情報があるかどうかを、本の表題や目次、索引等から判断したり、**新聞**の紙面構成等に基づいて、必要な部分を探して読んだりするなど、それぞれの資料の特性を生かした読み方をするのである。

「目的に応じて必要な情報を読み取る」ためには、文章の中で必要だと思った部分に印を付したり、必要な部分を抜き書きしたりしながら読み進めることなどが考えられる。その際、一冊の本を最後まで読む、大事な箇所を読む、多くの本に目を通すなどの様々な読み方を学習活動に取り入れることが大切である。なお、集めた資料を使用する際には、著作権にも十分留意させる必要がある。

目標→(3) 目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。

内容→② 言語活動例

ウ **新聞**やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較する。

解説→**新聞**や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などから得た情報を比較することにより、それぞれの情報手段や施設などの特徴及びそこから得られた情報の特徴について考えさせる。その上で、得た情報を、例えば、自分の考えの根拠にしたり具体例として取り上げたりすることが考えられる。

○3年「B 書くこと」

目標→(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。

内容→①指導事項

ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。

解説→生徒が取材を繰り返しながら考えを深めることができるよう、人間、社会、文化、自然などにかかわる様々な問題の中から決めるように指導する。課題に関する材料を多様な方法で集める中で、想定していなかった情報に出合うなどして、それまでの考えを改めたり、別の角度から検討したりする過程を重視するということである。このことが、課題に対する考えを一層深めることにつながっていく。例えば、**新聞**やパンフレット、発表用資料を編集することは、総合的に考えたり伝えたりする力を高めることに効果的である。

内容→② 言語活動例

イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集する。

解説→「編集する」という言語活動は、一つの文章を書く力だけではなく、幾つかの文章を書いて組み合わせることを通して、総合的に考えたり伝えたりする力を高める上で効果的である。例えば、**新聞**やパンフレット、発表のための資料を編集することなどが考えられる。それぞれの形態に応じて紙面構成を工夫したり、図表などを効果的に用いたりすることが大切である。また、複数の文章を集めて、課題やテーマに即して整理する活動も考えられる。その際、文章を一つにまとめる意図や目的を明確にして編集することが大切である。

「C 読むこと」

目標→(3) 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。

内容→①指導事項

ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価する。

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつ。

解説→複数の文章を比較しながら読むことにより、構成や展開、表現の仕方等の違いが分

かってくることがある。そのことを通じて、様々な文章の形式についての特徴や効果などについて評価する。評価する対象としては、教科書や本などに掲載された文章だけでなく、**新聞**や広告、パンフレットやポスター等様々な形態のものが考えられる。さらに、それぞれの文章における書き手の意図と表現の仕方とのかかわりを考えることにより、自分が文章を書く際に役立てることにつなげていくようにする。

内容→②言語活動

イ **論説**や**報道**などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。

解説→「**論説**」は、**新聞**の**論説**をはじめとして物事の是非を論じる文章をいう。書き手が**論説**の対象としてとりあげた物事について、どのような立場からどのような論を展開しているかを読み取ることが大切である。「**報道**」は、ここでは、**新聞**や雑誌等の文章を想定している。起こった出来事をとらえ、それについて書き手がどのように**報道**しているかを読み取ることが大切である。

【社会】

<地理的分野>

目標→(4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

解説→地理的分野の学習で活用できる資料としては、地図、統計、**新聞**、写真、紀行文など種々あるが、その中でも最も重要な役割を果たしているのが地図である。現代のように地域間の交流の盛んな時代においては、社会的事象を位置や距離関係を考慮して地図上でとらえることが効果的であり、大切なこととなっている。

内容→エ 世界の様々な地域の調査

解説→学習した地理的事象の中で、さらに追究してみたい内容や日ごろからの興味・関心を抱いたり、**新聞**・テレビなどで話題になったりしている地理的事象を整理しながら、その中から適切な主題を決定させる学習を丁寧に進めることが望まれる。

内容の取扱い→(2) ア 地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用すること。

解説→① 地理情報の活用に関する技能

c テレビや**新聞**など、特に地理情報として提供されたものでない情報を、どのように加工、処理すれば地理情報として活用が可能となるか、情報の地理情報化の視点や方法を身に付ける。

<歴史的分野>

内容→オ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して、第一次世界大戦前

後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。

解説→「文化の大衆化」については、大都市の発達や都市に住む人々の生活様式や意識の変化、**新聞**・雑誌などの普及やラジオ放送の開始などを扱うようにする。

*指導計画の作成と内容の取扱い→2 資料等の活用と作業的、体験的な学習

解説→2 資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的、体験的な学習の充実を図るようにする。その際、地図や年表を読みかつ作成すること、**新聞**、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用すること、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表することなどの活動を取り入れるようにする。

【美術】

内容の取扱いと指導上の留意点→ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、図などの多様な表現方法を活用できるようにすること。

解説→漫画は、形を単純化し、象徴化、誇張などして表現する絵である。日本では「鳥獣人物戯画卷」や「信貴山縁起絵巻」、江戸時代の人々の生活を漫画風に描いた「北斎漫画」なども残されており、日本の伝統的な表現形式の一つと言える。イラストレーションは、挿絵、図解、説明や装飾のための図や絵などのことであり、書籍や雑誌、**新聞**、ポスター、映像メディアなどに活用され、日常の生活の中に深く浸透してきている。図は特に、瞬時に内容が分かり伝わるのが大切であり、その目的や、何を示したいのかを考え、単純化・強調などをする必要がある。

【技術・家庭】

内容→A 家族・家庭と子どもの成長

解説→指導に当たっては、生徒の生活にかかわりの深い事例を取り上げ、具体的に考えられるようにする。例えば、自分や家族の生活を支えている家庭の役割を資料や**新聞**等を利用して見つめ直したり、子どもの成長と地域とのかかわりについて調べたり、地域の活動や行事等を取り上げて、高齢者など地域の様々な人々とのかかわりについて話し合ったりすることなどの活動が考えられる。

【道徳】

内容→1 学習指導過程の創意工夫 (1) 導入の工夫

解説→導入は、主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人の意識をねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付ける段階であるといわれている。主題のねらいにかかわる**新聞**記事、生徒作文、詩や短歌などを活用したり、さらに、地域の人々の協力を得たりすること、実験や観察など実物に触れる体験などを取り入れることなど多様な導入の工夫が考えられる。

内容→2 多様な学習指導の構想 (1) 多様な読み物資料による学習指導

解説→道徳の時間では、登場人物の道徳的行為を含んだ読み物資料を用いることが広く見られる。同じ読み物資料でも、詩、長文の物語や伝記、戯曲、実話、**論説**文、インターネットによる資料など、多様な形式のものを用いることもできる。したがって、読み物資料を学習指導の中で効果的に生かすには、登場人物への共感を中心とした展開にするだけでなく、資料に対する感動を大事にする展開にしたり、迷いや葛藤を大切にしたり、知見や気付きを得ることを重視した展開、批判的な見方を含めた展開にしたりするなど、その資料の特質に応じて、資料の提示の仕方や取扱いについて一層工夫が求められる。

内容→3 魅力的な教材の開発や活用

解説→教師の手による自作資料など教材の開発に当たっては、日常から**報道**や書籍、身近なできごと等に強い関心をもつとともに、柔軟な発想をもち教材を広く求める姿勢をもつことが大切である。具体的には、先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材として、生徒が感動を覚えるような教材の発掘に努めることが求められる。例えば、名作、古典、随想、民話、詩歌、**論説**などの読み物、地域の文化やできごと等に取材した郷土教材、映像ソフト、映像メディアやインターネットなどの情報通信ネットワークを利用した教材、実話、写真、劇、漫画などの多彩な形式の教材に着目することが大切である。

【総合的な学習の時間】

指導計画の作成に当たっての配慮事項→

- (2) 地域や学校、生徒の実態に応じて、教科書等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な学習、生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う。
- (3) 各学校において定める目標及び内容については日常生活や社会との関わりを重視する。
- (5) 学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動、職業や自己の将来に関する学習活動などを行う。

解説→国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題は社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題である。これらは正解や答えがひとつに定まっているものではなく、従来の教科の枠組みでは適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間で取り上げ、具体的な学習活動としていくことには大きな価値がある。

内容の取扱いについての配慮事項→

- (6) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施

設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行う。

解説→問題の解決や探究活動の過程では、様々な事象について調べたり探したりする学習活動が行われるため、豊富な資料や情報が必要となる。そこで、学校図書館やコンピュータ室の図書や資料を充実させ、コンピュータ等の情報機器やネットワークを整備することが望まれる。最新の図書や資料、**新聞**やパンフレットなどを各学年の学習内容に合わせて使いやすいように整理、展示したり、関連する映像教材やデジタルコンテンツを揃えていつでも利用できるようにしたりしておくことによって、調査活動が効果的に行えるようになり、学習を充実させることができる。

*年間指導計画の作成

内容→(3) 季節や行事など適切な活動時期を生かすこと

解説→例えば、地域に伝統的な行事のある地域では、その行事に参画することを目的にして年間計画を立てることもできる。一方、行事に参画することをきっかけにして地域の歴史や伝統にも関心をもち、学習活動を発展させていくこともできる。歴史的な記念日や国際的な記念日をきっかけに、問題の解決や探究活動を展開する際にも、同様の事が考えられる。例えば、世界環境デーや国際平和デーなどの国際デーは、国際連合などの国際機関によって定められた記念日であり、毎年決められた日や週などに特定の問題に関して関心を高めたり、問題の解決を呼びかけたりしている。国際デーが近づくと**報道**などでその内容が紹介されることも多い。このような機会をとらえて、**新聞**やテレビなどから得られた資料を紹介するなどして生徒の関心を呼び起こし、地域で行われる活動に生徒が参画したり、教室に招いて専門家の話を聞いたりするなどの学習活動が考えられる。

*総合的な学習の時間の学習指導のポイント

内容→1 学習過程を探究的にする ④まとめ・表現

解説→例えば、調査結果をレポートや**新聞**、ポスターにまとめたり、写真やグラフ、図などを使ってプレゼンテーションとして表現したりすることなどが考えられる。相手を意識して、目的を明確にして伝えたいことを論理的に表現することで、自分の考えは一層確かになっていく。町づくりと町の福祉の問題を考えながら、自らの日ごろの行動の在り方、様々な立場の人とともに豊かに生きていく方法、これからの町づくりや自分自身にできることなどについて考えることになる。

【特別活動】

目標→学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

内容→(2) 適応と成長及び健康安全

ウ 社会の一員としての自覚と責任

エ 男女相互の理解と協力

解説→生徒の社会性の不足や自立の遅れが指摘される中、社会の一員としての自覚をもち、責任ある行動のとれる人間の育成が求められている。とりわけ今日、情報化や国際化、科学技術の発展が急速に進む中、中学生においても的確な判断基準に基づき、主体的に責任をもって行動していくことが強く求められている。

具体的には、その時々¹の学級や学校における生活上の問題、地域における身近な出来事、**新聞**やビデオ等の資料などを取り上げ、話し合いやディベート、パネルディスカッションなどにより展開していくことも考えられる。

中学生の時期は、男女の身体的な特徴が顕著になるとともに、異性への関心の高まりや性衝動が生じるなど異性に対する心理面の変化も顕著となることから、男女における身体面・精神面の違いの理解や、異性と人間関係を築くに当たったのルールやマナーについての理解が十分でないことも予想される。このため、保健体育、道徳などの学習とも関連させ、男女相互の理解を一層深めるとともに、人間として互いに協力し尊重し合う態度を養うことが大切である。具体的には、男女相互の理解と協力、人間の尊重と男女の平等、男女共同参画社会と自分の生き方などの題材を設定し、アンケートやインタビューをもとに話し合ったり、**新聞**やテレビ等の資料をもとに話し合ったり討論したりして展開していくことが考えられる。

以 上